

平成 24 年 4 月 19 日

## 4 月の木材価格・需給動向

### 1. 国産材(北関東)

栃木の丸太生産は、天候が回復し、緩やかに増加。入・集荷の状況は例年に比べ入荷量が少い。入荷量は増加傾向にあり、引合いも全般に好転。スギ材は一部の製材工場で寒伐り材の手当てが見られたが、ヒノキ材は依然として低調な荷動き。市況は全般に底入れから強基調に転じており、スギ柱材は強含み、ヒノキ柱材は強保合となった。中目材については、スギは強保合だがヒノキは横這いで推移している。群馬の原木は、県森連市場への入荷が大きく減少し価格も若干上がり、協定買取の県産材センター価格に拮抗。製品受注は多少明るさも出たが依然厳しい。2月の新設住宅着工は久しぶりに対前年比プラスになったが依然低水準。県補助事業も800棟に対し692棟で、前年を割り込む結果。長期優良住宅申込みの準備が工務店団体、プレカット筋などで始まる。

### 2. 米材

2月の米国新設住宅着工戸数は、前月比1.1%減の年率69万8,000戸となった。米国丸太は中国向けの出荷が回復せず、出材は低調で価格は弱含み。カナダ丸太も同様に、セカンド、オールド共に弱含みだが、細丸太は保合の状況。産地の港頭在庫は発表されていないが、前月並の模様。ウェアハウザー社の4月積み米マツ IS ソートは前月比ダウン。米材丸太の入・出荷、在庫は横這い。大型港湾製材工場の3月の荷動きは回復せず、低調だった模様。内陸部製材工場も工場によりバラツキはあるものの総じて低調。製材品のTLT(東京木材埠頭)の3月入荷量は、2月末大型船がずれ込み、統計上は前月比227%の大幅増となったが、平均すれば変化無し。出荷量は同1%の微増、在庫は入超・出荷減で38%増。産地情勢は、米ツガ、米マツとも生産に大きな変化なし。産地価格は生産順調なため、製品価格は全般にほぼ横這いで推移。

### 3. 南洋材

サバの天候は回復したが、出材はさほど順調でない。相変わらず良材・太材は不足しており相場も高騰で張り付く。製品生産も落ちており、円高・運賃アップ

を理由に日本の下げ要請にもかかわらず相場は横這い。サラワクの天候は多少回復の兆しが見られるが、出材は増えていない。ここに来てインドが下級材主体に買い始めており、相場は大幅にアップ。このような動きは良材・太材にも波及し、相場は強含み。一方、日本のバイヤーは円高、合板市況の低迷により、高値に追随できず、しばらくは綱引き状態が続くと予測。現地の丸太相場は合板市況の低迷で弱含み。PNG・ソロモンは悪天候で出材に影響。中国からの引合いは依然旺盛で、丸太相場は強含み。丸太の入荷、在庫は減少、出荷は横這い。製材品の入荷は減少。原木の販売は、合板用・製材用とも低迷。製材品の販売は、集成材の荷動きは鈍い。棒類は良いが、平割一等材は一服感。

#### 4. 北洋材

ロシア極東は、堅調だった中国向けカラマツが、ここに来て価格下落が始まり、シッパーサイドは苦しい局面。日本の合板メーカー向けカラマツは CIF \$ 170/m<sup>3</sup>前後で、ジリ高となっているカナダ米マツに近づくが、日本向けソート生産できるシッパーは少なく、量がまとまった時点で値上げが予測される。シベリア地方は冬山造材が終盤で、例年ならば日中ロ各方面からオファーがある時期だが、中国満州里市場の盛り上がりには欠け、貨車運賃の値上げが、価格を下支えしている苦しい状況。富山港・富山新港の3月丸太入荷は、15,820 m<sup>3</sup>(アカマツ 11,137 m<sup>3</sup>、カラマツ 2,520 m<sup>3</sup>、エゾマツ 1,163 m<sup>3</sup>)と先月比 89%増。一方、製品は 8,354 m<sup>3</sup>で先月比 29%減。丸太の売行きは悪く動き低調。製材品は首都圏で輸入完成品の荷動き低調で港頭在庫も増加気味。出荷は低調で在庫は1~2ヶ月。丸太価格はエゾマツ、カラマツは弱含み、アカマツは横這い。製材品は弱含み。国内製材工場は、丸太は不採算、稼働は特殊サイズで受注生産に切り替え。

#### 5. 合板

合板用国産材、南洋材、米材丸太とも価格は全般に横這いだが、輸入丸太は船運賃が上昇傾向。各メーカーともに原木在庫に問題なし。2月の国内合板生産量 20.5 万m<sup>3</sup>のうち、針葉樹合板は 18.7 万m<sup>3</sup>(前月比 4%増)となり、出荷量は 15.7 万m<sup>3</sup>と生産量を大幅に下回り、在庫量は 19.4 万m<sup>3</sup>となった。3月もこの傾向は続くとの見方が強い。販売価格は、針葉樹合板が市場の買い控えによる荷動き不振で、メーカーの踏ん張りが薄れている。メーカー在庫は9ヶ月連続で増加し、適正在庫とは言いがたく、真剣な対処が望まれている状況。国産南洋材合板は輸入合板の影響もあり、中厚品を中心に価格は軟調傾向。針葉樹合板も荷動き低調で市場での手当ては鈍い。3月下旬から再び弱含みの展開となり、依然様子見は継続。輸入合板は先月末にかけて底値感が強まり、12mm 厚品を中

心に荷動きは回復。川上では4月以降値戻しの機運高まる。先行き、輸入合板は不安材料乏しく変化ないと予測されるが、針葉樹合板は需給バランスの改善に時間がかかるとの観測強く、軟調傾向は続く見通し。

## 6. 構造用集成材

原料・ラミナの入荷は、大手船会社が5月末までのコンテナ予約を中止したことにより、夏以降の入荷に多少の影響が見込まれる。現在の入荷は、現地12月、1月の暖冬の影響で、1ヶ月程度の遅れが出ている。価格動向は、原油の高騰により、船運賃の値上げが言われている中、原料にもその影響が出てきており、唱えで20ユーロ近く値上げ。今後も現地価格の高騰と円安により、円ベースでの価格上昇は否めない状況。国産集成材の販売・荷動き・受注・在庫ともに横這い。東北復興需要が徐々に見え始めてきている。現在、東北地域はリフォームが忙しく、九州地域は新幹線需要といわれ荷動き良し。一方、関東地域は職人不足が依然深刻で、中京、関西地域の荷動きは悪い。

## 7. 市売問屋

国産構造材は、スギ、ヒノキともに荷動き悪い。相場も丸太価格は底値圏にあるが製品は現状維持が困難。外材は入荷まらずも引合い鈍い。造作材は、国産材では秋田スギ桁平割りが入荷少ないものの堅調。一般建築用は特殊品を除き悪い。外材は、依然スプルス、米ヒバ等の良材が入荷少ない。スプルスは対応不可。とにかく買方の買い意欲乏しく、仕事量の確保の先行き見えない中で、市場への来場者も少なく、活気ない状況。景気はさっぱり上向かず、春需本番にもかかわらず先行きは実に不透明な状況。

## 8. 小売

国産材の構造材価格は、スギKD柱、小割、ヒノキKD柱、土台とも保合。外材は、米ツガKD平割、正角、ロシアアカマツ垂木は弱保合。WW間柱弱い。造作材スプルス、ピーラー良材少ない。WW、RW集成材は梁、柱とも弱保合。合板は、針葉樹、ラワンともに弱い。床板、フローアは変わらず。プレカット工場は、見積もりは来ているが価格が折り合わず仕事にはならない。工務店はリフォーム中心だがに仕事が出てきている。新築住宅は成約が出来ず厳しい。木工事の大工、内装関係職人不足でマンション引渡し伸びている状況。

[【参考資料】需給価格動向 PDF ファイル](#)